

Press Release

2008-09-26 08-09

曙ブレーキ、連結業績予想修正のお知らせ

曙ブレーキ工業株式会社(代表取締役社長:信元久隆 本店:東京都中央区 本社:埼玉県羽生市)は、本年5月7日の決算発表時に公表いたしました連結業績予想を添付資料の通り修正いたしますので、お知らせいたします。



平成 20 年 9 月 26 日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 信元 久隆
 (コード番号 7238 東証第一部)
 問合せ先 代表取締役副社長・CFO 荻野 好正
 (TEL. 048-560-1501)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 5 月 7 日の決算発表時に公表致しました連結業績予想を下記のとおり修正致します。

記

(金額の単位：百万円)

平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	84,000	5,000	4,000	2,100	19 円 57 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	89,300	1,300	600	100	0 円 93 銭
増 減 額 (B-A)	+5,300	△3,700	△3,400	△2,000	—
増 減 率 (%)	+6.3	△74.0	△85.0	△95.2	—
(ご参考) 前期第 2 四半期連結累計期間実績 (平成 19 年 9 月 期)	91,627	6,189	5,195	2,228	20 円 77 銭

平成 21 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	172,300	13,000	11,000	5,800	54 円 04 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	179,700	6,800	5,100	2,500	23 円 30 銭
増 減 額 (B-A)	+7,400	△6,200	△5,900	△3,300	—
増 減 率 (%)	+4.3	△47.7	△53.6	△56.9	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月 期)	184,731	15,158	12,619	6,637	61 円 85 銭

(修正の理由)

第 2 四半期連結累計期間の業績予想につきましては、売上高は東南アジアでの需要増加及び前提となる為替レートの変動による北米事業の売上高の見かけ上の増加を主要因として当初計画を上回る見込みであります。当初の予想を大幅に上回る鋼材・鋳物・石化製品等の資材価格の値上がり、それに伴う販売価格是正の自動車メーカーとの決着の時期ズレ、及び北米地域の付加価値の高い大型車用ブレーキの受注減少等により、営業利益、経常利益、中間純利益が、前回発表時(平成 20 年 5 月 7 日)の予想を大幅に下回る見込みとなりました。

通期の業績予想につきましては、国内外の自動車メーカーの減産はあるものの第 2 四半期連結累計期間の業績予想と同様の要因により、売上高は当初計画を上回る見込みです。利益面では、第 3 四半期以降も、資材価格の高騰・高止まりの影響や北米地域では引き続き大型車の販売不振が予想されております。従来から続けてきた革命的な原価低減活動の継続等、着実な利益増の努力を続けることは勿論、資材価格高騰分についての自動車メーカーとの取引価格適正化を確実に実行してまいります。第 2 四半期連結累計期間と同様に、営業利益、経常利益、当期純利益が、前回発表時の予想を大幅に下回る見込みとなりました。

通期業績予想の前提となる為替レートにつきましては、前回発表時は 1US ドル=95 円、1 ユーロ=155 円を想定しておりましたが、今回の修正では 1US ドル=105 円、1 ユーロ=165 円に変更しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

【補足】

<主な通期営業利益修正の要因(増減)>

(単位:億円)	連結合計	日本	北米	その他
前回発表時(平成 20 年 5 月 7 日時点)予想営業利益	130 億円	82 億円	28 億円	20 億円
● 資材高騰による費用増加 (取引価格適正化による収益増加影響を含む)	△19	△3	△14	△2
● 売上数量増減及び売上製品構成変化	△15	△5	△11	+1
● 会計制度変更(耐用年数変更/低価法採用)	△6	△6	—	—
● 鋳物工場立上げ費用増加	△7	△7	—	—
● 為替影響	△1	—	△1	—
● その他	△14	△5	△7	△2
今回発表営業利益	68 億円	56 億円	△5 億円	17 億円

<当年度の設備投資計画について>

- 当初の設備投資は通期で 176 億円を計画しておりましたが、経営環境の激変をふまえ 140 億円以下に抑制していきます。キャッシュ・フローについては、フリーキャッシュ・フローをプラスにする方向を基本スタンスとしていきます。

<来年度以降に向けて>

固定費の大幅削減等、従来から取り組んでいる原価低減活動により、来年度以降の回復に向けて着実に施策を実行していくことと合わせ、特に以下の施策について取り組みを強化していきます。

- アジア事業の強化
 - アジアで平成 23 年 3 月期に営業利益 30 億円を狙う体制づくり。
- 鋳物内製化
 - 難易度の高いアイテムの製造に着手しており、最新設備の導入による生みの苦しみに直面しておりますが、当年度中に確実な立上げを完了し、来年度以降有利製品の追加を含め効果創出を見込んでおります。
- 資材高騰等の市況変動影響のズレ込み分を含めた販売価格適正化の確実な実行
 - 営業と調達連携により、お客様とタイムリーな交渉を行い、ズレ込みを極小化。

以 上